

＜地域公共交通計画の評価等結果の様式＞

瑞浪市地域公共交通計画の評価等結果（令和6年4月～令和7年3月）

目標			目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
1-1 J R、路線バス、タクシーの維持、活性化	1-1-1 J R 瑞浪駅、釜戸駅の人口千人あたりの年間乗車回数	瑞浪駅 36,672回/千人・年 釜戸駅 2,139回/千人・年 （令和3年度） →維持	市は県を通じて要望活動を行った。瑞浪駅では観光パンフレットを配置し、観光客への案内を行った。釜戸駅は市よりまちづくり推進協議会へ乗車券類の販売業務を委託し、利用促進及び荒廃防止を図った。	乗車人数： 交通事業者からデータ提供 人口： 住民基本台帳	瑞浪駅 39,364回/千人・年 【瑞浪市地域公共交通計画の評価：A】 （数値目標の10割達成） 釜戸駅 2,378回/千人・年 【瑞浪市地域公共交通計画の評価：A】 （数値目標の10割達成）	瑞浪駅・釜戸駅ともに目標を達成することができた。引き続き、可能な限りJ Rへの乗り継ぎを考慮したダイヤ改正に努める。	
	1-1-2 路線バス、タクシーの人口千人あたりの年間乗車回数	路線バス 1,480回/千人・年 タクシー 2,238回/千人・年 （令和3年度） →維持	【路線バス】 令和6年12月よりデジタル回数券を発売し、窓口に並ぶことなく購入可能となった。 【タクシー】 ・二種免許養成制度により若年層の乗務員を獲得や、個別の要望に応じた勤務体系の採用により、持続可能な運営体制の整備に努めた。 ・有限会社SKUは相乗りタクシー事業を開始した。	乗車人数： 交通事業者からデータ提供 人口： 住民基本台帳	路線バス 1,787回/千人・年 【瑞浪市地域公共交通計画の評価：A】 （数値目標の10割達成） タクシー 1,491回/千人・年 【瑞浪市地域公共交通計画の評価：C】 （数値目標の8割未満達成）	・路線バスについては、目標を達成することができた。路線を維持していくため、事業者と市は利用促進を図る事業の検討を進める。 ・タクシーについては、目標を達成することができなかった。事業者は引き続き効率的な運営体制や利便性向上の取組を実施する。市はタクシー不足に関する地元要望を把握し、事業者にも共有する。	
2-1 コミュニティバス、デマンド交通の活性化	2-1-1 コミュニティバス、北部デマンド交通の人口千人あたりの年間利用回数	コミュニティバス1,743回/千人・年 北部デマンド交通 53回/千人・年 （令和4年度） →維持	・コミュニティバス陶線をデマンド交通への見直しについて協議し、令和7年10月から転換することとなった。 ・稲津・山田地区においてAIオンデマンド交通の導入調査を行い、今後の方針を検討した。 ・利用者アンケート及び地区要望にて利用実態やニーズを把握し、運行内容の見直しを行った。	乗車人数： 市資料 人口： 住民基本台帳	コミュニティバス1,980回/千人・年 【瑞浪市地域公共交通計画の評価：A】 （数値目標の10割達成） 北部デマンド交通 45回/千人・年 【瑞浪市地域公共交通計画の評価：B】 （数値目標の8割以上10割未満達成）	・コミュニティバス萩原線のダイヤについて、地区内で買物ができるよう見直しを行う。 ・陶デマンド交通の運行内容を協議し、住民への周知を行う。 ・引き続き、利用者アンケート及び地区要望にて利用実態やニーズを把握し、運行内容へ反映する。	
2-2 高齢者、高校生の利用維持、向上	2-2-1 地域公共交通による人口カバー率	83.4%（令和2年）→ 85.0%	—	人口： 国勢調査 メッシュ人口	—	—	5年毎に評価を実施
3-1 持続可能な仕組みの構築	3-1-1 コミュニティバス、デマンド交通の収支率	・コミュニティバス 8.8%＝収入(5,129千円)/経費(58,581千円)×100 ・北部デマンド交通 12.6%＝収入(768千円)/経費(6,079千円)×100 （令和4年度） →基準値計算式における収入に対し人口増減率を加味した数値を維持	・AIオンデマンド導入調査にて事業者からの協賛金の制度についてヒアリングを行った。 ・引き続き時刻表の裏面の有料広告を募集を行い、6事業者より応募があった。 ・事業者は運転手募集のチラシ作成を行い、市は設置の協力をした。	収入、経費： 市資料 人口： 住民基本台帳	・コミュニティバス 10.5% 【瑞浪市地域公共交通計画の評価：A】 （数値目標の10割達成） ・北部デマンド交通 13.2% 【瑞浪市地域公共交通計画の評価：A】 （数値目標の10割達成）	・すべての目標を達成することができた。コロナ禍以降、収入が増加傾向にあることと、コミュニティバスについては車両の小型化等による運行の効率化の成果であると考える。 ・令和8年2月より公立東濃中部医療センターが開業予定であるため、地域公共交通によるアクセスの確保に向け、関係者と調整を進める。	
	3-1-2 市の運行費用負担額	58,763千円（令和4年度） →基準値計算式における収入に対し人口増減率を加味した数値を維持		運行費用負担額：市資料 人口： 住民基本台帳	53,116千円 【瑞浪市地域公共交通計画の評価：A】 （数値目標の10割達成）		

3-2 地域公共交通の 魅力度の向上	3-2-1 運転免許証自主返納支 援制度の申請者数	75人（令和4年度）→ 増加	【交通DXの取組】 県の事業として、自動運転 バスの導入について検討を 行った。 【利用促進活動】 ・時刻表を作成し、市内全 戸配布を行った。 ・デマンド交通の出張乗り 方教室を開催し、参加者 には無料乗車券を配布した。 ・観光協会は、令和5年度 の結果を踏まえ、観光利用 向けのデマンド交通の運行 を行った。 ・運転免許証自主返納支援 制度の案内チラシを作成 し、交通安全教室等にて配 布した。また、他課主催で 市役所にて運転免許証自主 返納出張窓口（7月、12月 で各1日）を開設し、返納し やすい環境を調えた。	運転免許証自主返納支援制 度の申請者数： 市資料	・令和6年度：72人 ・目標には届かなかったが、令和5年度実 績の53人から大幅に増加した。 【瑞浪市地域公共交通計画の評価：B】 （数値目標の8割以上10割未満達成）	【交通DXの取組】 自動運転バスの導入に向けて実証実 験を行う。 【利用促進活動】 ・引き続き時刻表を作成し、市内全 戸配布を行い、公共交通の利用促進 へ繋げる。 ・昨年度開催したデマンド交通の出 張乗り方教室では、新規登録者の開 拓に加え、利用者の意見を聞く場と もなったため、今年度も引き続き希 望者に向けて開催する。 ・運転免許証自主返納出張窓口が開 設されると支援制度の申請者が増加 するため、主催課と連携し、公共交 通機関への利用転換を図る。	
--------------------------	---------------------------------	----------------	---	--------------------------------	--	---	--

（記載に当たっての留意事項）

- ・ 本様式中、表題の「（○年○月～○年○月）」の部分には、評価等の対象となる期間を記入してください。
- ・ 毎年度の評価になじまないような目標や、数年おきの評価を予定している目標については、「備考」の欄にその旨を明記の上、「目標」及び「備考」の欄以外は「－」と記載して下さい。
- ・ 一つの目標と複数の取組が対応している場合や、複数の目標と一つの取組が対応している場合には、適宜欄を修正の上、記載を行ってください。
- ・ 月ごとの利用者数の推移等の詳細データや、地域公共交通計画の評価等に係る協議会における議論の結果（議事録等）等の関連資料がある場合には、併せて添付して下さい。
- ・ 地方公共団体・協議会等において独自に作成している評価等の様式が既にある場合や、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価を行った報告様式がある場合には、参考資料として添付して下さい。